

令和6年度 第2回大阪市地方独立行政法人天王寺動物園評価委員会 議事要旨

■開催日時：令和6年7月24日（水）13：30～15：45

■開催場所：天王寺動物園 TENNOJI ZOO MUSEUM

■出席者：

（委員） 有田 真紀 有田真紀公認会計士税理士事務所 公認会計士・税理士
高坂 佳詩子 弁護士法人色川法律事務所 弁護士
佐渡友 陽一 帝京科学大学生命環境学部 准教授
高瀬 孝司 オフィスT 代表（委員長）
原 久美子 公益社団法人日本動物園水族館協会 専務理事
水上 啓吾 大阪公立大学大学院都市経営研究科 准教授

（大阪市） 佐々木 康晴 建設局公園企画運営担当部長
吉田 祥子 建設局公園緑化部調整課動物園支援担当課長代理
浦野 路与 建設局公園緑化部調整課担当係長

外1名

（法人） 計7名

【議事要旨】

1 開会

2 地方独立行政法人天王寺動物園の令和5年度業務実績評価について

資料1・2について事務局より説明

<意見>

- ・ 小項目で逸走事故を取り扱う項目を19から55に変更したことに対し、異論はない。（全員）
- ・ 各小項目及び大項目に対する評価、全体評価について、市評価案のとおりで妥当である。（全員）
- ・ 大項目1-1の評価理由について、JAZA（日本動物園水族館協会）の中でも大規模な会議である種保存会議をホストとして開催したことについて追記した方がよい。種別管理の担当を引き続き熱心に担当していることも評価すべき。（佐渡友委員）
- ・ 大項目1-4のS評価について、ヨウスコウワニの繁殖に向けた様々な取組が成果をあげ、それを発表することによって全国的な模範となるような事例を提供できたことは非常に重要で、高く評価されるべき。（佐渡友委員）
- ・ ヨウスコウワニの繁殖について、天王寺動物園が14年ぶりに新しいペアで繁殖できた功績は大きい。また、ヨウスコウワニの種別管理者を担当する園として、今後の繁殖に向けた他園館とのコーディネート役割を担っていただく等、今後が楽しみである。（原委員）

- ・ ペンギンパーク & アシカワーフのオープンは園の魅力向上という意味で、昨年度の非常に大きなトピックスだったと思うが、どの項目にも記載がないので全体評価等で触れてほしい。小項目ではどうしても拾いきれない事例がでてくるので、そういったものは全体評価に記載できればと思う。(高瀬委員長)
- ・ 全体評価の最後の一文に「寄附等を戦略的に増やす」とあるが、寄附額の目標が達成されているのであれば、未達部分の「ファンクラブ会費収入等を戦略的に増やす」等表現を工夫しては。(水上委員)
- ・ 今回法人から口頭で補足説明のあったような前回資料に記載がない取組事例や成果等は、今後はアピールや情報共有の意味でも、記録に残る形で法人評価としてまとめ、市の評価にも繋げてほしい。(高瀬委員長)
- ・ 能登半島地震を受けて、のとじま水族館からカリフォルニアアシカの受け入れができたのは、新獣舎建設により十分なバックヤードができたことによるもの。予期せぬ事態に対して貢献できたことで、改めてバックヤードの重要性が確認できたという意味を含めて記録に残す価値があるので、評価のどこかに記載してほしい。(佐渡友委員)
- ・ 寄附やクラウドファンディングが収入全体に占める割合は圧倒的に低いので、財務改善のためにはやはり入園料収入をあげるべき。入園料収入の項目は目標を達成しているので評価できる、となっているが、私は目標が低いと考えている。(有田委員)
- ・ グッズ開発によって売上が上がったことは、収入面だけでなく来園者サービスにおいても重要なポイントであるため、今後も売店委託業者と協力しながら記憶に残るような商品を作りだしてほしい。(佐渡友委員)
- ・ SDGsの項目にあったユニフォームのアップサイクルのように、細かな環境配慮の取組は生物多様性保全を掲げる動物園にとって非常に重要な項目であり、教育にもつながるため評価すべき。今後も模範となる事例を積み重ねてほしい。(佐渡友委員)

3 第2期中期目標策定について（意見交換）

資料3について事務局より説明

<意見>

- ・ 2-2（人材の確保・育成）について、20歳人口がかなり速いペースで減っており、人材の確保は喫緊の課題。子供たちが将来天王寺動物園の職員をめざしたくなるような環境づくりも必要である。(水上委員)
- ・ ふれんどしっぷガーデンにおいて、かなりの人数の専門学生を授業の一環として受け入れ、施設の運営を担ってもらうという形態は先進的である。過去には実習生が天王寺動物園の職員として採用された例もあるということで、人材育成という観点からも大きな意義がある。(佐渡友委員)
- ・ ふれんどしっぷガーデンでの取組はJAZAの「動物園水族館雑誌」においても事例報告として発表されている。様々な方針などにも丁寧に触れられており、飼育関連の事例が多い当該雑誌において、教育普及関連の数少ない事例として非常に評価できる。(原委員)
- ・ 人材育成については尽力いただいていると思うので、様々な工夫を継続してほしい。(高坂委員)

- ・ 単に動物園運営だけでなく、文化事業の一環として第2期最終年度にこうありたいという大阪市としてのビジョンを示し、そのために動物園はこう運営していく、と謳っていくことが必要。第2期に向けて不透明なところもあると思うが、「目標」として大きなものを掲げる必要があるのでは。(高瀬委員長)
- ・ 中期目標の期間については、前回の委員会で3年が妥当ではというご意見もあったが、大きな目標では3年では実現しづらいので、現状の5年間でよいと思う。(高瀬委員長)
- ・ 地方独立行政法人法に規定のある、中期目標に具体的に定めるべき4項目については分かりづらいところもあり、大項目から小項目へ落とし込む過程で、漏れてしまうテーマがでてきてしまうのではという懸念がある。前回の法人自己評価にあった、3分野「動物園の本来事業」「動物園の魅力向上」「経営・組織・運営」に沿って整理をすれば網羅的に課題を拾えるのではと考えている。(高瀬委員長)
- ・ 法の規定のあるものを変えるのはハードルが高く、細目から作ると法に合致しているかという逆の検証も必要となってしまうのでは。(高坂委員)
- ・ 法に規定されている項目名と、大項目の各項目名の対応関係が分かりづらい部分もあると思う。例えば大項目1が「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」となっているが、住民以外へのサービス提供もあるだろうし、評価に向けて大項目の表題と項目内容の対応関係が分かるように表現を工夫すべき。(水上委員)
- ・ 評価軸はむしろ複数あった方がよいと思う。大阪市の各戦略とどのように関連しているかをクロスしながら、複数の視点で確認しながら進めることが必要。それでもなお抜け落ちる項目についてはこうした委員会などで拾い上げていく、という丁寧なプロセスが非常に重要。また、これらは具体的な中期計画が出てこない全体像が見えにくいのでは。(佐渡友委員)
- ・ 3ページ目の「ブランド形成」について、具体的にどのように形成され、それがどの評価項目に当てはまっていくかというのがまだ少しわかりにくい。(佐渡友委員)
- ・ 3ページ目の「生物多様性保全」について、大阪市のビジョンに沿ったものとするのであれば「大阪市生物多様性戦略」ともリンクさせ、そのキーワードが入っていてもよいと思う。また、WAZA（世界動物園水族館協会）でもゼロカーボンをめざす動物園としての指針を作成しているので、それらを参考にすることで「世界に誇れる動物園」を意識していることに繋がるのでは。また、保全活動自体は動物園が実施するものだが、それに参加する来園者や市民の行動変容について触れていけば具体性がでるのでは。(原委員)
- ・ 小項目ではどうしても漏れてしまう実績があるという前提で、どこにも当てはまらないものについては別途記載できる欄を設けておき、後からどの分野に該当するかを検討すれば漏れがないと思う。(原委員)
- ・ 1-4で市から法人に求めることとして施設建設の話題があるが、その他獣舎も含めた園全体の整備計画を踏まえて、第2期中期目標を決める必要がある。(佐渡友委員・高坂委員)

4 閉会